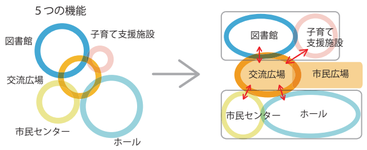
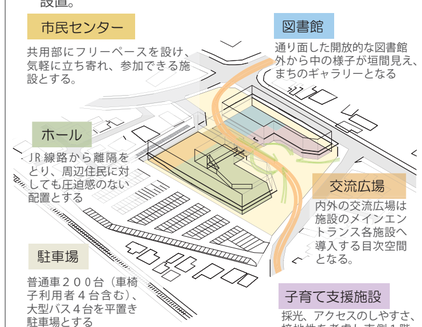
こみせギャラリー回廊と通り抜け型交流広場をもつ創造都市拠点

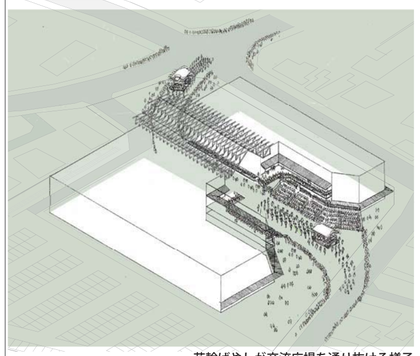
課題１
５つの施設・機能で構成する複合施設として、施設相互の有機的結びつきや共有空間の有効活用など複合施設のメリットを最大限発揮するための考え方について

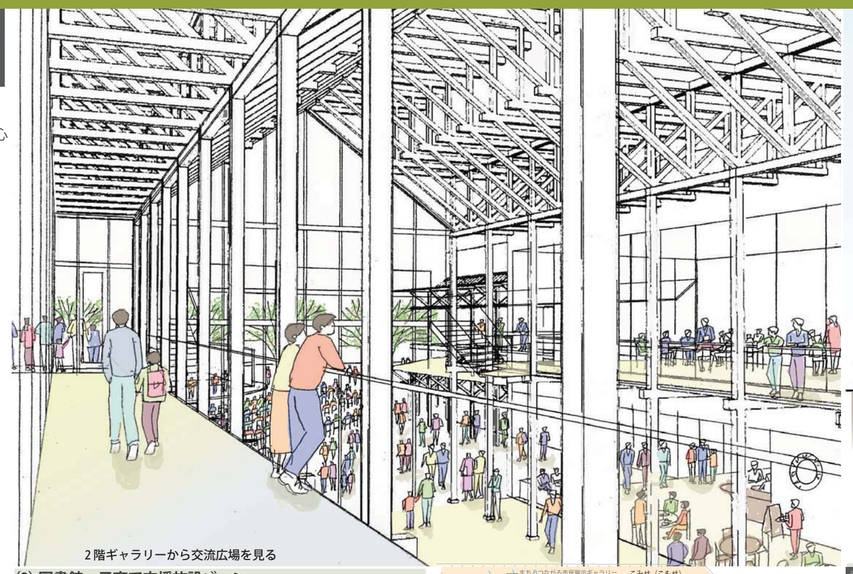
（１）５つの機能の構成―３つのゾーン―創造都市拠点構成
５つの機能を５輪の花の輪のようにまとめ、交流広場を中心にして３つの空間ゾーンに構成する。



（２）配置について－花輪ばやしが南北に通り抜ける遊環回廊
①大ホールを鉄道線路から遠くに（７０m以上）配置する
鉄道からの音と振動の影響を避ける（浮き構造が不要）
②大ホールのフライ位置が敷地北側の住民に影響の無い位置とする。敷地周辺に日影の影響が出ないように配慮する
③交流広場は南面させる
北国の施設として南面させることにより明るく多くの人々が集まりやすく、周辺に日影の影響がないようにする。
④交流広場（内・外）を貫いて花輪ばやしが通り抜ける施設配置とする
⑤２００台の平置き駐車場を敷地西側にまとめる
立体駐車場をつくらず、雪の処理を簡易にする
⑥新しい街路と一体となる市民広場の構成演出を図る
⑦駅からのアプローチがスムーズに交流広場と連続する
⑧車によるアクセスとして北東のフォーマルな正面車寄せへは新しい市道の久保田側から出入りし、西側の駐車場へは、車寄せからの構内通路からのルートと、西北口、西南口、南口からのルートを計画。
⑨サービス動線として道具搬入口へは、南側の駅への新市道からとし、その近くにトラック・バス等の大型車駐車場を設置。




花輪ばやしが交流広場を通り抜ける様子


２階ギャラリーから交流広場を見る

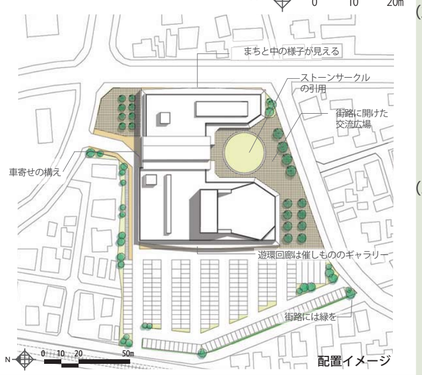
(３) 図書館・子育て支援施設ゾーン
―入りやすく、学びやすく、遊びやすい親密空間
①市民が日常的に使いやすい形としてこども関係の児童図書、子育て支援施設を１階に配置
②２階に図書館を設ける。木質のインテリアとして天井高さを４m確保してゆったり感を演出する。中央部を書棚、周辺部に閲覧空間を配置し、明るく落ち着いた雰囲気をもち、多様な閲覧スタイルを用意し、本を読みたくなるような学習意欲を喚起する図書館とする。
③子育て支援施設は、静かな図書館ゾーンの明るい南側で駐車場からのアクセスも良い１階に配置し、プレイルームと図書館の児童開架スペース、お話ルームとの繋がりを図る。

(４) 市民センター・ホールゾーン
―集会する、創作する、鑑賞しやすい感動空間
①人の出入りが多く活動が動的な「市民センター」は、同様な性格の文化ホールに繋がる西側の配置とし、ホールとの機能面の連携関係を重視。
②３分割に可能な小ホール、小ホールの控室にも使える会議室、運営事務室、市民団体活動支援室は、文化ホールのバックゾーン（搬入口、備品庫）に近い１階に配置して連携のしやすさと施設の共用化を図り、施設全体への目配りとバックゾーンの出入り管理も可能とする。
③多目的研修室、会議室、和室、創作室、調理実習室などの使用目的が明確な諸室は、交流広場から近くて落ち着いたスペースが得られる２階の配置とする。
④700席の大ホールは視覚条件、音響条件の良いワンスロープ型客席配置として省面積設計に徹し、合わせて１階ロビーからも全ての客が席へ容易にアクセスできる合理的なレベル計画とする。

(５) 交流広場（内）交流広場（外）－イベンタブルな創造祝祭空間
①交流広場（内）は木造の目次空間
交流広場（内）は４つの機能空間のエントランスとなる。吹抜けを通して全ての施設の入口が見え、回遊できる目次空間としての機能をもつ。この交流広場につくられる木造の廊空間は日常的には展示空間であるが、花輪ばやしの時は観覧空間に変身する。
②交流広場（内）は、吹き抜け空間の響きを生かしたコンサートや壮行会の場ともなり、「花輪ばやし」やパレードなどのイベントの時には行列の通り抜けスペースとして開放され、街を上げての祝祭空間となる。
③交流広場（外）は両側を施設の壁で囲まれ、２階観覧席ギャラリーを備えた鹿角独自の「劇場型広場」。朝市や特産市場、屋外コンサート等の場として、市民とともに多くの客が楽しめる地域の新名所。仮設ステージの平土間に1300席、２階ギャラリーに200席、南道路側に500席の立ち見を想定すると、ここに2000席の野外劇が生まれる。
④交流広場（内外）は快適なカフェ、1, 2階の回廊に沿った展示催事の様子が興味を誘い、それぞれの目的を持って来館する市民に加え、特に目的を持たないフリーな市民が気軽に訪れて自由に回遊する。

1階平面イメージ

2階平面イメージ

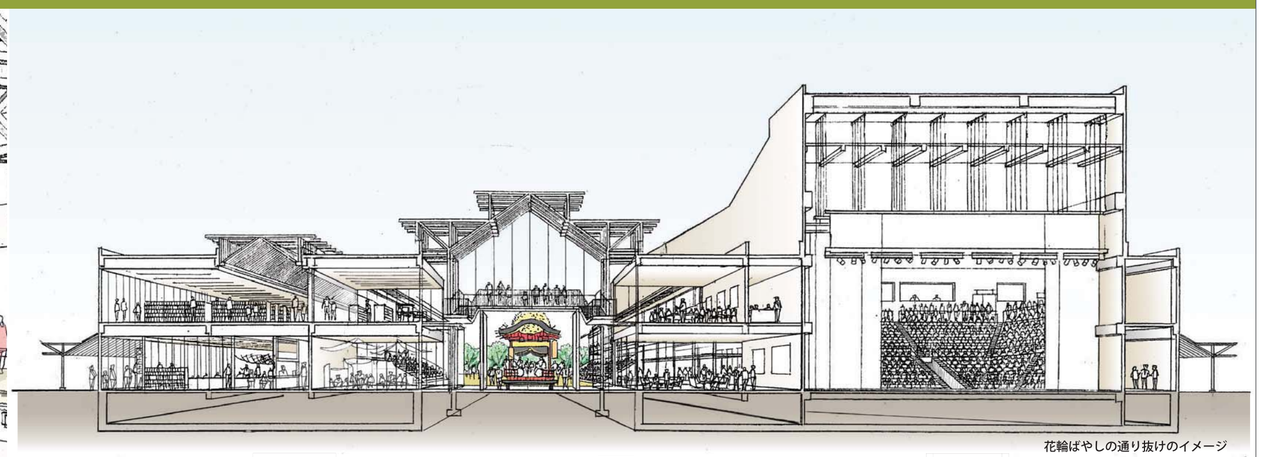


配置イメージ

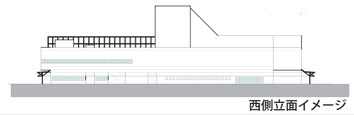
配置検討

凡例						
大ホール						
図書館						
市民センター						
子育て支援施設						
交流広場						
駐車場						
鉄道から70mライン						
祭りのルート						
周辺環境への配慮	◎	△	△	△	△	×
交流広場との連携	◎	◎	△	×	△	◎
まちとのつながり	◎	◎	△	△	○	○
駐車場の計画	◎	◎	○	×	×	×
ホール環境	◎	◎	×	◎	◎	×
採光・通気	◎	△	◎	○	△	△
祭りのルート	◎	○	△	△	△	△

市民の活動意欲を喚起し、まち活動を活性化する遊環構造


花輪ばやしの通り抜けのイメージ

北側立面イメージ


西側立面イメージ

南側立面イメージ

課題２
新たな文化・交流の創造と地域社会の活力や賑わいを創出するための施設のあるべき姿と、その実現に向けて市民との共動の手法によって施設整備並びに施設運営を進めていく考え方について

まちを元気にする拠点
（１）意欲を喚起する施設構成
①こみせ型都市廊が施設全体をとりまくことにより中の活動の様子が良く見え、複合の効果が発揮され、市民の新たな活動が喚起される。
②「通り抜け型」の空間構造が生み出す街づくりのアクティビティーとして、花輪ばやし・花輪ねぶたの祭り行列、子どもたちの吹奏楽パレードなど、市民が「まち行動」を楽しむ機会がここから発信される。
③市民の学び、遊び、創作、鑑賞、集会、催しなど様々な活動を引き出しやすい空間構成である。それは遊環構造理論にもとづいた体験の多様性と回遊の重要性から導き出されている。

鹿角まちなか・文化の回遊路

鹿角市花輪地区中心街は古くからコンパクトにまとまったループ状の構造を有しており、花輪ばやしの行列歩きばかりでなく、市民の日常生活の回遊ルートとしても有効。　①**鹿角花輪駅前**から順に、②**福祉プラザ地区**、③**道の駅あんとらあ**、④**旧関善酒店**/**定期市場地区**、⑤**既存商店街新町・大町地区**、⑥**文化交流拠点**としての本施設、そして①鹿角花輪駅前へと１周して2.5km、ゆっくり歩いて回れる距離である。　本施設の内の交流広場と外の交流広場を繋ぐ軸を祭りのパレードが通り抜けることによって、街の営みが施設に入り込み、本施設はまちの一部となる。　本施設から多様な街歩きがどんどん送り出され、元気に戻ってくることによって、街活動が益々活性化される。

（２）市民参加、市民共動による施設整備
①市民と設計者が共に学びあうミニレクチャー型やワークショップを展開する。市民の方々には劇場、図書館、市民センターなどのハード・ソフトの市内外先行事例、活動事例を伝え、また設計者は地元の多様な市民活動の情報を交換しながらワークショップを行う。
②基本計画を進化させ、設計段階においても数多くの市民ワークショップを展開する。
③基本設計・実施設計・工事の各段階において詳しい情報発信をし、プログラム開発・組織開発を同時並行にて行う。

（３）市民との共動による施設運営
①運営面を主体とした他地域の先行施設の見学、活動分析、施設の維持管理・運用面から見た施設のハードとソフトの問題点を市民と共有する。
②施設の工事中から、設計者も加わったプレ事業や施設の運用WSを重ねて、新施設の多様な可能性を知り、生かし方を共に創造する。
③交流広場（内・外）の多様な使い方、文化ホール、子育て支援などの運用の可能性を具体的な催事計画へ参加して共有する。

課題３
環境に配慮した省エネルギー対応と自然エネルギーの有効活用や建設及び維持管理コストの最適化によって総合的に経済的な施設を実現させるための考え方について

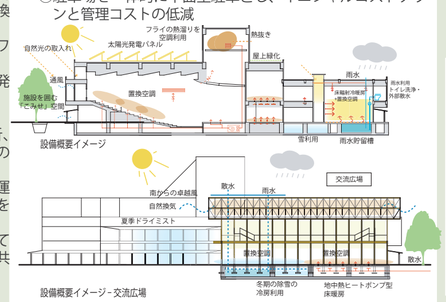
（１）地産・地消の自然エネルギー活用と省エネルギー対策
①敷地内で活用できる自然エネルギーは、地中熱、雪冷房、太陽光、雨水、外気
②省エネタイプの設備機器を積極的に採用することにより10％のエネルギー減
③真冬も人々を暖かく迎える交流広場のふく射地中熱床暖房
④真夏も人々をさわやかに迎える図書館棟の雪冷房

（２）生涯コスト削減に向け、進化する自然エネルギー活用
①太陽光発電コストは、将来の設備更新時に本格導入
②環境にやさしくメンテが容易な交流広場・子育て支援施設のプレイルームの地中熱床暖房を採用
③地中熱交換型ヒートポンプによる環境にやさしい暖冷房システムの採用
④駐車場の除雪を躯体内に貯め、図書館棟の夏季冷房に活用

（３）三段階の自然エネルギー導入による長期的取り組み
①太陽光、地中熱、雪蓄熱、木質ペレットボイラー等の導入を図り、必要エネルギーの１０～20％達成を目差す。
②15年後程度の設備更新時期に、市場情報をふまえて、望ましい方式の増設化を図り導入率30～50％を目差す。
③コンパクトスマートグリッド都市を目指す。「鹿角エリアグリッド」を構築し、１施設では取り組めない地熱発電や山上風力発電、電力貯蔵装置を開発し、時間別の利用割合を制御して、導入率70～100％を目差す。

（４）自然エネルギーを有効に活用する建築設計の工夫
①ライトシェルフ・トップサイドライトで機械照明・空調に頼らない。自然通気・採光を活用し、空調・昼間の照明を削減。
②図書館の南側・西側開口は「こみせ」の庇で日陰をつくる −10%
③中間期の積極的な通風、換気・・・・・常時可動に対し　−20%
④外壁、屋根面の高断熱仕様・・・・・熱通過率0.5で −25%
⑤断熱・高気密性の建具・・・・・ノーマル使用に比べて −25%

（５）初期投資の低減と低メンテナンスを図るアイデア
①１階２階床レベルの全館統一による利用しやすさと搬送しやすさ。ユニバーサルデザインの徹底による利用者増とメンテナンス減の実施
②エレベーターは全館で２台　CASBEE はＡランク取得を目指す
③床面積を有効活用する設計による基本的なコスト削減
④ワンスロープ客席、ワンフロアロビーによるホールの省面積設計
⑤交流広場を共用動線として最大限生かす省面積設計
⑥ JR線路からの離隔距離によりホールの浮構造を不要とするコストダウン（ホールの浮構造を止め約5000万円の削減）
⑦駐車場を一体的に平面型駐車とし、イニシャルコストダウンと管理コストの低減



課題４
その他の提案

（１）鹿角らしい地球環境都市建築
鹿角の伝統工芸と建築手法を融合するため、図書館・子育て支援施設ブロックと市民センター・劇場ブロックはＲＣとし、交流広場及び２つのゾーンブロックの周囲を囲むこみせ型の都市廊は木造による。ＲＣ造と木造のハイブリッドの新たな地球環境都市建築のスタイルを発信する。

（２）街並みと連続するこみせ型都市廊
こみせ型の都市廊は鹿角の街並みと連続する。街並みに異物感を感じさせず、以前からそこに存在するような環境として形成されることを意図する。

（３）鹿角の意匠の引用
鹿角の建築意匠の伝統は旧関善にみられるような繊細さといえる。全体にRC部分は磁器質の棒タイルを縦型に貼る。縦型の繊細さと、庇の横線との組み合わせにより、高度に繊細なデザインを追求する。そして、内部の意匠は気持ちがはずむ楽しさが溢れた空間とする。

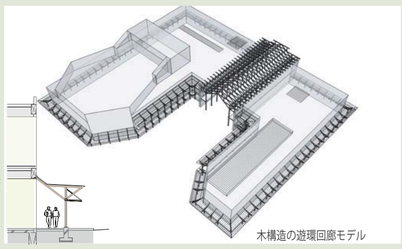
棒タイルイメージ

（４）創造都市プログラムの提案
世界的にも文化イベントを中心とした創造都市づくりが話題となっている。ＥＵの文化首都はそのような事例だが、鹿角でも伝統的なまつりのイベントと合わせて文化イベントを市民の皆さんといっしょに創り上げたいと考える。施設づくりは人づくり、事づくりでもある。

内外の交流広場が創造都市鹿角の発信空間だ。
鹿角を東北随一の創造都市としよう。
本施設はその拠点となる。

（５）安全・安心の都市建築
日本は世界の平均的な場所に比べ１００倍も地震等を被災しやすい国である。従って本施設は地域の防災拠点にならねばならない。構造設計においても、その安全目標を高くし、多くの市民にとって安全安心の拠り所となる施設とする。

（６）地場産材を使用した合理的な構造システム
①両側ＲＣ部の強度変形に追従できる柔らかな木構造とし、スリーヒンジ・片持ち等の静定構造、弾性支承等を用いる。
②交流広場の木架構は秋田スギの正角芯持ち材、長さ4-6m材だけでつくれる大架構とする（120, 135, 150, 180, 210角）
正角材を使うメリットは
1. 芯持ち材の間伐材を最も有効に使える断面
2. 正角芯持ち材ならば事前の伐採、乾燥、製材によるストックが可能
3. 重ねてダボ打ちすれば大きな合成部材が安価に得られる。


木構造の遊環回廊モデル